

仮想アース Crystal E の導入(11)(HP 収載)
ーデジタル再生系(2)ー

1. 始めに

前報(10)に引き続き、仮想アース Crystal E の導入について検討していきます。

2. Crystal E の試聴方法

前報(6)では Brooklyn DAC+を経由するデジタル再生系における Crystal E の効果をしらべました。

デジタル再生系でアース端子があるのは Brooklyn DAC+の他に EMT981 がありました。そこで EMT981 に Crystal E 単独でアース線を繋ぎ替えます。

EMT981→TruPhase→300B



音源はダンパーフレークの導入(3)でも使用した下記の CD です。これらは演奏会でも聴いてきたものです。

Evidence EVCD015

ベートーヴェン Sonata for cello and piano No. 1 他
フランソワ＝フレデリック・ギィ (ピアノ)

harmonia mundi KKC-5976

モーツァルト他 ピアノと管楽器のための五重奏曲 変ホ長調 K.452 他
アンサンブル・ディアーロギ

S&R AVCL-25005

バッハ他 あなたがそばにいたら他
森麻季 (ソプラノ) / 山岸茂人 (ピアノ)

NML WS001

Gustav Mahler Symphony No. 1 in D major
Fabio Luisi 指揮 Wiener Symphoniker

3. Crystal E の試聴結果

まず、現状のアースなしの状態では聴いておき、ついで Crystal E の効果を聴いていきます。

現状のアースなしでも、終段の 300B シングルアンプまでバランス接続とし、EMT981 には GPS777 から 44.1KHz のクロックを入れていることから、十分に満足すべきレベルに達しています。

ベートーヴェンの Sonata for cello and piano では、Crystal E を繋がると、劇的な変化とは言えませんが、確かにピアノの余分な響きが減って音に芯がでてきますし、チェロの音も演奏会で聴いたようなリアル感が出てきます。

モーツァルトのピアノと管楽器のための五重奏曲では、Crystal E を繋がると、劇的な変化とは言えませんが、フォルテピアノの打鍵の音に芯がでてきますし、古楽器の 4 つの木管の過度な膨らみも抑制されます。

森麻季では、Crystal E を繋がると、劇的な変化とは言えませんが、森麻季のソプラノも、伴奏のピアノも音像がキリッと立ってきます。

マーラーの交響曲 1 番では、4 楽章の総奏を聴きましたが、Crystal E を繋がると、劇的な変化とは言えませんが、霧が晴れたようになり、個々のパートの音の粒だちがはっきりしてきます。

オールバランス接続の機器なので、そもそもアース端子がある意味も良く分かりませんでした。この場合は、Crystal E の効果はあると言えます。

4. まとめ

EMT981 の CD 再生で、劇的な変化とは言えませんが、Crystal E の接続の効果を認めました。

以上